

平成 28 年度学校関係者評価シート(中間評価)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高 坂 学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理 由・意 見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の現状をしっかりと把握して、目標、指標、計画が設定されている。 ・これまで長年取り組んできた成果を踏まえて、高い使命と具体的な方策が示してあり、今後の実践が期待される内容になっている。 ・体験を目標としているが、体験させることが大切ではなく、その体験を通して生徒にどういう事を考えさせるか。体験を通して生徒の内面がどう変わっていくかが重要である ・達成の目標値が高めに設定されているのではないか。生徒たちは就労や、不登校経験などから、継続的に授業や行事に参加しにくい状況がある。そこで、参加しにくい生徒が少しでも参加できたことを評価できる設定を考えるべきである。 ・合理的配慮の必要性から、連携回数を増やす目標があるが、職員の勤務環境を整備する必要がある。 ・教育目標を実現するために、環境分析に基づいて強みと機会を目標に落とし込むことが必要だと感じます。そのためにはアセスメント票や行事評価・改善シートなども評価指標として考えるべきである。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな取組みを行い、今後の活動計画もしっかりできてきていることは評価できる。新たな事を行ったことで、今までになかった、新たな学びや発見があったのではないか。そのことを評価すべきである。 ・授業のユニバーサルデザイン化に向けての取組は、今後も推進させてほしい。 ・少し評価が厳しすぎるのではないかと思う項目もあります。数値も大切ではあるが、前向きに取組んできた事実を評価しても良いと思う。また、数値だけにとられることなく、頑張ってきたことを成果としてとらえ、見た時に元気が出るような評価にすることが、今後につながるはずである。 ・目標値を達成した項目は達成目標から外し、スリム化を取り組むべきである。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に丁寧な指導を行っていることが、生徒アンケートの肯定的な評価に繋がっている。 ・目標達成に向けて保護者アンケートを実施し、保護者と連携を図っていることが評価できる。 ・教員全体が多様な生徒たちへの個別的なアセスメントと、それに基づいた関わりを続けていることを高く評価します。学校内だけでなく、学校外での行動の支援や、就労に関しては他機関との連携など、熱心に取組まれていることも高く評価できる。 ・ここ数年で、職員のメンバーが新たになっているのに、学校が活性化しているのは、目標達成に向けた取組が適切に行われているからだ評価できる。 ・取組の成果が上がっていることが分かる。取組の内容が可視化され、活動とその目的が生徒や地域に浸透してきているのではないか。この流れをぜひ継続して欲しい。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に向けた評価指標を設定し、出てきた数値に対してなぜそのような結果になったかを考え、分析に活かしているところは、高く評価できる。 ・実践されたことについては、適切に評価して、外部にも広く発信することが大切である。 ・数値化できる項目の評価はほぼ目標を達成しているので、評価が厳しすぎると思う。
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の改善策としては、教員間の情報や方向性の共有化・組織化に集約されると思います。この方策に向かって、是非、これからも推進されることを期待しています。 ・米づくり体験学習から大豆づくりへと変えられた。この学習を更に進め、生徒自らが実践する体験活動を今後も進めてほしい。 ・教科と特別活動の二つの領域が両輪となって前進する改善策が図られており、尾道南校の教育がますます充実・発展していくのではないかと期待できる。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・予定に沿って教育活動が展開されており、一定の成果を上げているので、今後も継続して取組んでほしい。 ・地域にとって南高校の存在は、かけがえのないものです。引き続き、南高校の生徒たちが、在学中に自分のことを理解して、自分にあつた進路を選択して、前向きに人生を歩んでいける取組みを期待しています。 ・今後の改善方策として、家庭との連携、生徒理解により力を入れてもらいたい。また、働いている現場での労働教育の視点の必要性について協議し、改善方策の中に取り入れていただきたい。 ・目標を精査し、限られた資源の合理的な活用を今後も進めていってほしい。